

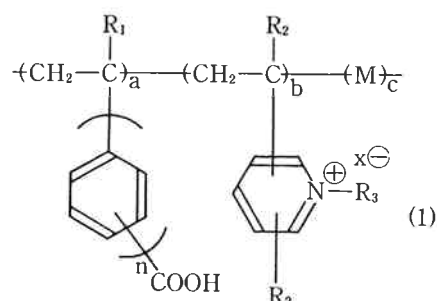
付

特許・実用新案登録一覽

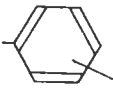
—昭和59年度—

〈日本特許〉 74件

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
1	54-65554 (54. 5. 29) (村上 平賀)	58-19602 (58. 4. 19) (次雄, 井川 要一)	1185414 (59. 1. 20) 一成	安定な次亜塩素酸カルシウム組成物	次亜塩素酸カルシウム無水物及び次亜塩素酸カルシウム二水化物を主成分とする次亜塩素酸カルシウム組成物において、次亜塩素酸カルシウムが60w%以上、水酸化カルシウムが5w%以上、水分が4w%以上で、且つ塩化カルシウムが5w%以下の組成を有することを特徴とする安定な次亜塩素酸カルシウム組成物。
2	54-161630 (54. 12. 14) (朱山 秀雄)	58-18957 (58. 4. 15)	1185147 (59. 1. 20)	ホットメルト接着樹脂組成物	(A)エチレン-酢酸ビニル共重合体100重量部、(B)酸価1~300(KOH mg/g)の変性石油樹脂1~30重量部、(C)有機過酸化物0.01~1重量部を混合して成るホットメルト接着樹脂組成物。
3	55-19738 (55. 2. 21) (鈴木 祐二)	58-20971 (58. 4. 26)	1187869 (59. 1. 30) 西崎 克巳)	吸水性樹脂組成物	エチレン-酢酸ビニル共重合体けん化物とポリアクリル酸とポリビニルピロリドンとからなる吸水性樹脂組成物。
4	55-22780 (55. 2. 27) (西崎 鈴木)	58-20972 (58. 4. 26)	1187870 (59. 1. 30) 山根 伸治 祐二)	接着性樹脂組成物	エチレン-酢酸ビニル共重合体および/またはそのけん化物にポリエチレンイミンおよびポリアクリル酸を配合してなる接着性に優れた樹脂組成物。
5	56-6472 (56. 1. 21) (西崎 山根)	58-20973 (58. 4. 26)	1187875 (59. 1. 30) 小川 良和 伸治)	成形用樹脂組成物	メルトインデックス0.1~400g/10mm、酢酸ビニル含有量1~60重量%のエチレン-酢酸ビニル共重合体100重量部に対しシリカを1~200重量部、エポキシ樹脂を0.1~50重量部配合してなる成形用樹脂組成物。
6	50-14823 (50. 2. 6) (井本 有吉)	58-25102 (58. 5. 25)	1192860 (59. 2. 29) 博, 佐藤 昌利 隆司, 下村 清一)	クロロプレンゴム組成物	酸化カルシウム及び分子量200~1500の範囲のポリエチレングリコールを原料ゴム100重量部に対して0.2~5.0重量部の範囲で使用することを特徴とする流動床式常圧連続加流用クロロプレンゴム組成物。
7	50-139196 (50. 11. 21) (清田 清水)	58-23407 (58. 5. 14)	1192869 (59. 2. 29) 徹, 浅海 俊一 明彦)	高分子電解質複合体の製法	水と水に混和性のある少なくとも一種の酸および/または有機溶媒からなる混合溶媒の存在下に、下記一般式(1)~(3)

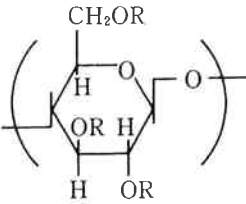




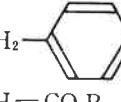
No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
7					<div style="text-align: center;"> <p style="text-align: right;">(2)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p style="text-align: right;">(3)</p> </div> <p>(ただし、R_1, R_2 は水素原子または炭素数 1 ないし 4 のアルキル基である。R_3 は</p> <p> $-\text{CH}_2-\text{C}(\text{R})=\text{CH}_2,$ $\text{-(CH}_2\text{)}_m\text{COOC}(\text{R})=\text{CH}_2,$ $\text{-(CH}_2\text{)}_m\text{COOCH}_2-\text{C}(\text{R})=\text{CH}_2,$ $\text{-(CH}_2\text{)}_m\text{O}-\text{C}(\text{R})=\text{CH}_2,$ $\text{-(CH}_2\text{)}_m\text{O}-\text{CH}_2-\text{C}(\text{R})=\text{CH}_2$ または、 </p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>(R は水素原子またはメチル基である。 m は 1 ないし 3 の任意の数である。n は 0 または 1 の数である。) の一種である。 R_4, R_5 および R_6 の中で一つ以上は次の基を含むことを必要とする。</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
7					<p> $-\text{CH}_2-\text{C}(\text{R})=\text{CH}_2$、 $+(\text{CH}_2)_m\text{COOC}(\text{R})=\text{CH}_2$、 $+(\text{CH}_2)_m\text{COOCH}_2-\text{C}(\text{R})=\text{CH}_2$、 $+(\text{CH}_2)_m\text{O}-\text{C}(\text{R})=\text{CH}_2$、 $+(\text{CH}_2)_m\text{O}-\text{CH}_2-\text{C}(\text{R})=\text{CH}_2$、 $+(\text{CH}_2)_m\text{CONH}-\text{C}(\text{R})=\text{CH}_2$、 または $-\text{CH}_2-$  $(\text{CH}_2-\text{O})_n\text{C}(\text{R})=\text{CH}_2$ </p> <p> (Rは水素原子またはメチル基である。 mは1ないし3の任意の数である。nは0または1の数である。)である。 また R₄, R₅ および R₆ の中で上記した基で満たされていないものは炭素数1ないし4のアルキル基またはアルキロール基である。 aは70以下の任意の数である。bは10以上の任意の数である。cは0を含む任意の数である。xはハロゲン原子または水酸基である。Mはビニル単量体および/またはエチレン性二重結合を有する単量体である。) </p> <p> で示される少なくとも一種の重合体とスルホン酸および/またはスルホン酸塩を含む強電解質型ポリアニオンとを反応せしめることを特徴とする高分子電解質複合体の製法。 </p>
8	51-25526 (51. 3.11) (宮之原 勲, 宮崎 弘 河村 秀雄)	57-42000 (57. 9. 6)	1192874 (59. 2.29)	スラッジの改質法	<p> 金属水酸化物を含有するスラッジに軽焼マグネシアを添加することにより、スラッジの pH を9以上とすることを特徴とするスラッジの改質法。 </p>
9	51-76488 (51. 6.30) (大野省太郎, 山県 義則)	58-25342 (58. 5.26)	1192878 (59. 2.29)	多孔性合成樹脂膜の製造方法	<p> 溶剤に溶解した合成樹脂を板上に流延した後、該溶剤の融点以下に冷却した該合成樹脂に対して非溶剤となる溶剤に浸漬して合成樹脂溶液を固化し、この際表面層に剝離可能な層を形成せしめ、この層を剝離し、かくして得られた剝離膜を該合成樹脂に対して非溶剤となり、かつ該合成樹脂の溶剤とよく混合する冷却した溶剤で急激な温度変化を防ぎつつ洗滌し、徐々に室温に戻して乾燥することを特徴とする孔径分布が狭く、孔が厚み方向にほぼ垂直に続いている多孔性合成樹脂膜の製造方法。 </p> <p> 溶剤に溶解した合成樹脂を板上に流延した後、該溶剤の融点以下に冷却した該合成樹脂に </p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
9					対して非溶剤となる溶剤に浸漬して合成樹脂溶液を固化し、この際表面層に剝離可能な層を形成せしめ、この層を剝離し、かくして得られた剝離膜を該合成樹脂に対して非溶剤となり、かつ、該合成樹脂の溶剤とよく混合する冷却した溶剤で急激な温度変化を防ぎつつ洗滌し徐々に室温に戻して乾燥して得られる多孔性合成樹脂膜の非溶剤浸漬面をエッチングすることを特徴とする孔径分布が狭く孔が厚み方向にほぼ垂直に続いている貫通多孔を有する合成樹脂膜の製造方法。
10	55-119875 (55. 9. 1) (毛利 杉森 崎山)	57-52430 (57.11. 8) 隆, 吉田 正敏, 小柴 和孝)	1194514 (59. 3.12) 節夫 淳治	電解用陰極	金属からなる基体表面に、(1)ニッケル塩(2)ニッケルと共折が可能であり、かつニッケルより卑な電位を示す犠牲金属の塩の少なくとも一種、(3)可溶性含硫黄化合物の少なくとも一種を溶解した水溶液を用い、ニッケル合金メッキを行い、次いで、熱処理を施した後に、該メッキ被膜中の犠牲金属の少なくとも一部を、選択的に除去せしめてなる電解用陰極。
11	55-120674 (55. 9. 2) (毛利 杉森 崎山)	57-52431 (57.11. 8) 隆, 吉田 正敏, 小柴 和孝)	1194515 (59. 3.12) 節夫 淳治	電解用陰極	金属からなる基体表面に、(1)ニッケル塩、(2)ニッケルと共折が可能であり、しかもニッケルよりも卑な電位を示す犠牲金属の塩の少なくとも一種、(3)可溶性含硫黄化合物の少なくとも一種、(4)アンモニウムイオンを溶解した、水溶液を用いニッケル合金メッキを行い、次いで、熱処理を施した後に、該メッキ被膜中の犠牲金属の少なくとも一部を選択的に除去せしめてなる電解用陰極。
12	50-53260 (50. 5. 6) (宮之原 勲, 松岡 亨)	58-30287 (58. 6.28)	1194566 (59. 3.12)	ハイドロキノン水溶液 の製造方法	パラジソプロピルベンゼンを酸化して得たパラジソプロピルベンゼンハイドロパーオキシドの酸分解反応液をアルカリ水溶液中で中和し、ついで、蒸留により、アセトンを留去し、その残留水溶液から有機溶剤で有機性不純分を抽出除去して、ハイドロキノン水溶液を製造するにあたり、前記中和の終点を、pH 3.0 以下に保持することを特徴とするハイドロキノン水溶液の製造方法。
13	54-113571 (54. 9. 6) (村上 次雄, 菊地 井川 一成)	58-29245 (58. 6.21)	1195611 (59. 3.12) 光雄	粗大次亜塩素酸カルシウム 二水化物の製造方法	次亜塩素酸カルシウム二水化物を製造する方法に於て (1) 水酸化カルシウム及び/又は二塩基性次亜塩素酸カルシウムの懸濁液を塩素化して半塩基性次亜塩素酸カルシウムを晶出させ、 (2) (1)で得られた半塩基性次亜塩素酸カルシウムを塩素化して次亜塩素酸カルシウム二水化物を晶出させる際、種晶として次亜塩素酸カルシウム二水化物の a, b, c の各軸の比が $0.5 \leq b/a \leq 2.0$ $c/a \geq 1.5$ であり、かつC軸が5ミクロン以上である柱状次亜塩素酸カルシウム二水化物を添加することを特徴とする粗大次亜塩素酸カルシウム二水化物の製造方法。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
14	51-104975 (51. 9. 3)	58-32170 (58. 7.11)	1199411 (59. 4. 5)	多孔性合成樹脂膜の製造法 (大野省太郎, 小山 憲治 清水 明彦)	易熱分解性の成分を20~40% (重量組成) 含む AB 型あるいは ABA 型ブロック共重合体薄膜を熱処理し, 易熱分解性成分を熱分解して薄膜外に除去することを特徴とする多孔性合成樹脂膜の製造法。
15	51-109436 (51. 9.14)	58-33886 (58. 7.22)	1199412 (59. 4. 5)	陽イオン交換膜並びにその製法 (高橋 堅二, 清田 徹 浅海 俊一, 清水 明彦)	スルホン酸基を結合しているパーフルオロカーボン重合体膜と該重合体膜に存在するラクトン環を含む重合体より構成されてなる陽イオン交換膜。 スルホン酸基あるいは加水分解によってスルホン酸基になりうる基を結合しているパーフルオロカーボン重合体膜にラクトン環を有するビニル単量体またはラクトン環を形成しうるジオレフィン単量体を必要に応じて架橋剤および/またはその他の単量体とともに含浸せしめたのち重合すること, および上記において加水分解によってスルホン酸基になりうる基を結合しているパーフルオロカーボン重合体膜にラクトン環を有するビニル単量体またはラクトン環を形成しうるジオレフィン単量体を必要に応じて架橋剤および/またはその他の単量体とともに含浸せしめたのち重合する場合は, さらにスルホン酸基になりうる基をスルホン酸基に変換することからなることを特徴とするスルホン酸基を結合しているパーフルオロカーボン重合体膜と該膜に存在するラクトン環を含む重合体より構成されてなる陽イオン交換膜の製法。
16	51-129328 (47. 5.30)	57-2055 (57. 1.13)	1199417 (59. 4. 5)	水処理材の製造法 (47-53010の分割)	不活性ガス雰囲気下で加熱分解して得られたポリ塩化ビニルの部分脱塩酸物をアルキルポリアミンと反応せしめ, 更に, 下記(1)群の化合物の中から少なくとも一種を反応せしめることを特徴とする水処理材の製造法。 (1) 水硫化物, クロロ酢酸類, カルボニル基またはチオカルボニル基をもつ化合物。
17	54-112375 (54. 9. 4)	58-33161 (58. 7.18)	1199468 (59. 4. 5)	次亜塩素酸カルシウム組成物 (村上 次雄, 菊地 光雄 井川 一成)	次亜塩素酸カルシウム組成物において, 次亜塩素酸カルシウムが実質的に次亜塩素酸カルシウム二水化物の単結晶からなり, かつ, 該次亜塩素酸カルシウムを60~80重量%, 水酸化カルシウム5重量%未満含む次亜塩素酸カルシウム組成物の比表面積 (プレーン法で求めた値=プレーン値) が 1500 cm ² /g 以下であることを特徴とする次亜塩素酸カルシウム組成物。
18	51-74499 (51. 6.25)	58-35526 (58. 8. 3)	1201480 (59. 4. 5)	ポリ-2, 3-ジヒドロフランの製造方法 (井村 信一, 大鶴 雅昭)	光の照射下, 鉄ペンタカルボニル並びにフリーデルクラフト型触媒及び/又はアルキル金属化合物の存在下で, 2, 5-ジヒドロフランを単量体異性化重合させることを特徴とするポリ-2, 3-ジヒドロフランの製造方法。
19	55-111057 (55. 8.14)	58-36011 (58. 8. 6)	1201586 (59. 4.25)	接着性樹脂組成物 (森下 延男, 鈴木 祐二)	(A)エチレン含有量が80~98モル%の範囲内にあるエチレン-酢酸ビニル共重合体および/またはそのケン化物100重量部,

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
19					<p>(B)式</p>  <p>〔式中Rは水素, メチル基, ヒドロキシエチル基, ヒドロキシプロピル基, $(\text{CH}_2-\text{CH}(\text{OR})-\text{O})_X\text{H}$ (Xは1以上の整数), CH_3 アセチル基,  および $-\text{CH}_2\text{COOM}$ (Mはいずれも水素またはアルカリ金属)の中から選ばれる1種以上の置換基を示す〕の反復単位を有するセルロース誘導体の一種または二種以上1~50重量部および(C)有機過酸化物0~1部とからなる接着性樹脂組成物。</p>
20	55-139881 (55.10.8) (西崎 克巳)	58-34514 (58.7.27) (森下 延男)	1201587 (59.4.25)	接着方法	<p>ポリエステル樹脂とポリエステル樹脂あるいは、他の基材を接着する方法において、エチレン-酢酸ビニル共重合体および/またはそのケン化物100重量部と、塩素化ポリエチレン10~300重量部からなる樹脂組成物を接着剤として用いることを特徴とする接着方法。</p>
21	55-143015 (55.10.15) (西崎 克巳)	58-36015 (58.8.6) (森下 延男)	1201588 (59.4.25)	樹脂組成物	<p>エチレン成分が35~75重量%であるエチレン-酢酸ビニル共重合体15~70重量部の存在下に塩化ビニルモノマーもしくは塩化ビニルモノマーを主体とするモノマー混合物30~85重量部を重合させることにより得られる軟質塩化ビニル系グラフト共重合体100重量部とフェノール樹脂0.5~50重量部からなる透明性にすぐれた樹脂組成物。</p>
22	55-163359 (55.11.21) (西崎 克巳)	58-36016 (58.8.6) (森下 延男)	1201589 (59.4.25)	樹脂組成物	<p>エチレン成分が35~75重量%であるエチレン-酢酸ビニル共重合体15~70重量部の存在下に塩化ビニルモノマーもしくは塩化ビニルモノマーを主体とするモノマー混合物30~85重量部を重合させることにより得られる軟質塩化ビニル系グラフト共重合体100重量部に対しテルペン樹脂0.5~50重量部を配合してなる透明性にすぐれた樹脂組成物。</p>
23	53-63001 (53.5.26) (小柴 淳治, 高橋 薫 吉田 博幸, 五十嵐 昇) (東芝セラミックス(株)と共願)	58-30958 (58.7.2)	1202644 (59.4.25)	β -アルミナ隔膜の再生法	<p>電解電圧が初期電解電圧より2V以下増加した電解用β-アルミナ隔膜を750°C以上で、且つβ-アルミナ隔膜の焼結温度以下の温度で加熱処理することを特徴とする熔融金属ナトリウム電解精製用又は溶触ナトリウム塩電解用β-アルミナ隔膜の再生法。</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
24	49-66595 (49. 6. 13)	58-35737 (58. 8. 4)	1204742 (59. 5. 11)	ゼオライトの再生処理方法 (森下 悟, 新堀 圭介 北 俊英) (東亜合成化学と共願)	1, 1, 1-トリクロロエタンの精製, 乾燥に使用したゼオライトを, 窒素, 二酸化炭素, アルゴン, ヘリウムまたはこれらの混合気体と接触させながら加熱して再生するにあたり, 常温から1, 1, 1-トリクロロエタンの沸点近傍の範囲の温度でまず第一段加熱を行い, 次いで前記第一段加熱の温度を越え 400°C までの温度範囲の温度で更に加熱することを特徴とするゼオライトの再生処理方法。
25	52-68883 (52. 6. 13)	58-35531 (58. 8. 3)	1204762 (59. 5. 11)	陽イオン交換膜の性能向上の方法 (清田 徹, 清水 明彦)	陽イオン交換基を含むフッ素樹脂陽イオン交換膜を水との混和性を有する有機溶媒で膨潤させ, 次いで該溶媒を該膜から除去したのち, 塩酸で処理することを特徴とする, 陽イオン交換膜の性能向上の方法。
26	53-147138 (53. 11. 30)	58-35985 (58. 8. 5)	1204768 (59. 5. 11)	ジペプチドエステルとアミノ酸エステルとの付加化合物 (小山 清孝, 野中 悠次 伊藤 幹雄) (相模中央化学研究所と共願)	一般式 $R'O_2C - \overset{Y}{\underset{ }{CH}} - NH_2 \cdot HO_2C - CH_2 - \overset{NH-X}{\underset{ }{CH}} - CONH - \overset{CH_2}{\underset{ }{CH}} - CO_2R$  <p>(式中Xはベンジルオキシカルボニル基, Yはメチル基, イソプロピル基, イソブチル基, ベンジル基又は p- ヒドロキシベンジル基, R及びR'はメチル基又はエチル基を表わす。RとR'は共通であっても別異であってもよいが, Yがベンジル基のときは共通でないものとする。)で示され, 一般式中の</p> $HO_2C - CH_2 - \overset{NH-X}{\underset{ }{CH}} - CONH - \overset{CH_2}{\underset{ }{CH}} - CO_2R$  <p>単位が LL- 型のジペプチドエステルで,</p> $R'O_2C - \overset{Y}{\underset{ }{CH}} - NH_2$ <p>単位が D- 型又は D- 型に富むアミノ酸エステルである化合物。</p>
27	53-45262 (53. 4. 19)	58-37321 (58. 8. 16)	1205213 (59. 5. 11)	アニオン重合方法 (福田 三寿, 田子 和夫 清水 明彦)	重合溶媒中でアニオン重合可能な単量体を重合開始剤の存在下で重合するにあたり, 下記の操作[I]に次いで操作[II]を施した重合系にアニオン重合可能な単量体および重合開始剤を導入し, 重合することを特徴とするアニオン重合方法。 操作[I] 重合溶媒のみあるいは重合溶媒と不

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
27					<p>活性気体から成る重合系に、重合阻害物質の存在しない状態で着色を呈する有機金属化合物の溶液を系が着色を呈するまで添付する。</p> <p>操作〔Ⅱ〕 失活剤を、系の着色が少なくとも殆んど認められなくなるまで添加し該有機金属化合物を除去する。</p>
28	54-164005 (54. 12. 19)	58-40989 (58. 9. 9)	1205243 (59. 5. 11)	吸水性樹脂組成物 (鈴木 祐二, 麻生 慶紀)	<p>エチレン含量が80~98モル%の範囲内にあり、酢酸基の20%以上を水酸基に変換したエチレン-酢酸ビニル共重合体けん化物100重量部と、式</p> $\left(\text{CH}_2 - \underset{\text{R}_1}{\overset{\text{X}}{\text{C}}} \right)_n$ <p>(式中 R₁ は水素またはアルキル基であり、Xは -COOM (Mは水素またはアルカリ金属である)、または</p> $\text{—N} \begin{array}{l} \text{CH}_2 - \text{CH}_2 \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{C} \quad \text{—} \quad \text{CH}_2 \\ \text{O} \end{array} \text{—} \quad \text{である) の反復単位を}$ <p>主体とする水溶性高分子5~200重量部とからなる吸水性樹脂組成物。</p>
29	51-103600 (51. 9. 1)	58-34449 (58. 7. 27)	1207122 (59. 5. 11)	β- フェニルエチルアルコールの製造法 (近藤 赫文, 小宮 克夫 岩本 英次)	<p>スチレンオキシドを液相で、スチレンオキシド100重量部に対して約1ないし約30重量部の水及びアルカリ性物質の存在下、ラネーニッケルを触媒として、温度 10°C 以下で水素化反応させることを特徴とする β- フェニルエチルアルコールの製造法。</p>
30	51-135275 (51. 11. 12)	58-34409 (58. 7. 26)	1207124 (59. 5. 11)	塩基性炭酸マグネシウムの製造方法 (有家 潤二, 前田 一)	<p>巾 1~10 μ, 長さ 50~200 μ の針柱状結晶の正炭素マグネシウムを含有する水性懸濁液を温度 110~180°C で且つ関係式</p> $S = \int_{t_1}^{t_2} \{T - 100\} dt$ $= \int_{t_1}^{t_2} \{f(t) - 100\} dt$ <p>において S 値が 700 ≤ S ≤ 4500 の範囲の条件下で脱炭酸化することを特徴とする塩基性炭酸マグネシウムの製造方法。</p> <p>ここで、 t : 正炭酸マグネシウムを含有する水性懸濁液の加熱開始時を基点とした経過時間, [分]。 以下の t₁, t₂ についても同様。 T : 経過時間 (t) における液温, [°C] を示し、T の推移は t の関数すなわち T=f(t) として表わされる。 t₁ : 加熱開始後、液温が 100°C に到達した</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
30					<p>時間, [分]。 t_2: $100^{\circ}\text{C} \leq T \leq 180^{\circ}\text{C}$ の領域において脱炭酸化処理を終了させた時間, [分]。 S: $100^{\circ}\text{C} \leq T \leq 180^{\circ}\text{C}$ の領域で $(T-100)$ すなわち $\{f(t)-100\}$ を t_1 から t_2 まで経過時間 (t) によって積分した数値, [分・$^{\circ}\text{C}$]。をそれぞれ表わす。</p>
31	53-149715 (53. 12. 5) (竹本 久雄, 五十嵐辰夫)	58-40478 (58. 9. 6)	1209714 (59. 5. 29)	多糖類およびその製造法	<p>構成糖としてアロースを含む多糖類。 シュードモナス属に属し, 菌体外に構成糖としてアロースを含む多糖類を産生することのできる細菌を培養して, 培地中にこの多糖類を蓄積させ, これを分離採取することを特徴とする多糖類の製造法。</p>
32	51-75463 (51. 6. 28) (竹内 愛三, 長野 弘幸 黒木 齊)	58-43084 (58. 9. 24)	1210743 (59. 6. 12)	プラスチック成形靴底材の同時成形被覆方法	<p>プラスチック成形機にて靴底材を成形する方法において, 予め軟化点 $80 \sim 170^{\circ}\text{C}$ を示す接着剤を塗布した被覆材を金型に挿着した状態にしておき, しかる後成形機により 80°C 以上に加熱, 熔融したプラスチックを注入し内部を充満させると同時に接着剤を介して被覆材と合体せしめることを特徴とするプラスチック靴底材の同時被覆方法。</p>
33	52-51253 (52. 5. 6) (永野 丹羽 峰雄, 粟沢 竜彦 茂)	58-46133 (58. 10. 14)	1210748 (59. 6. 12)	塩化ビニルの塊状重合方法	<p>塩化ビニル重合体, 塩化ビニル系共重合体又は塩化ビニル系グラフト共重合体などの重合体を製造するに当り, 塩化ビニルモノマーに対して $0.005 \sim 0.1$ 重量%のセルローズ誘導体の存在下で塊状重合を行うことを特徴とする重合方法。</p>
34	54-143302 (54. 11. 7) (麻生 慶紀, 鈴木 祐二)	58-46214 (58. 10. 14)	1210768 (59. 6. 12)	接着性に優れた樹脂組成物	<p>エチレン-酢酸ビニル共重合体に $1 \sim 50$ 重量%の, 式</p> $\left\{ \text{CH}_2 - \underset{\text{Y}_1}{\overset{\text{X}}{\text{C}}} \right\}_n$ <p>{式中Xは水素原子又はアルキル基であり, Yは COOM (式中Mは水素原子又はアルカリ金属である)} で表わされる反復単位を主体とする水溶性ビニル重合体を 0.005 重量% ~ 5.0 重量%の有機過酸化物を存在させて混合することにより得られる接着性に優れた樹脂組成物。</p>
35	55-47 (55. 1. 7) (佐藤 孝男, 清田 徹)	58-46550 (58. 10. 17)	1210771 (59. 6. 12)	塩化アルカリ水溶液の電解方法	<p>カルボン酸基を有するフッ素系陽イオン交換膜を用いて塩化アルカリ水溶液を電解し, 苛性アルカリを製造する際に電解槽に陽イオン交換膜を装着し, 陽極室に水, 又は塩化アルカリ水溶液を, 陰極室に 1 重量%以上の水溶性有機溶剤を含む苛性アルカリ水溶液をそれぞれ満たし, 陰極室内の圧力を陽極室内の圧力よりも高く保ち $0 \sim 50^{\circ}\text{C}$ の温度下で $1 \sim 24$ 時間保持した後, 通電を開始することを特徴とする塩化アルカリ水溶液の電解方法。</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
36	55-4577 (55. 1. 21) (西崎 克巳)	58-46215 (58. 10. 14) (鈴木 祐二)	1210772 (59. 6. 12)	接着性に優れた樹脂組成物	エチレン-酢酸ビニル共重合体100重量部に対してポリビニルアルコール1~50重量部を有機過酸化物0.005~5.0重量部の存在下に混合することにより得られる接着性に優れた樹脂組成物。
37	55-103567 (55. 7. 30) (今浜 敏信)	58-46242 (58. 10. 15) (中沢 秀昭)	1210782 (59. 6. 12)	重合体エマルジョンの製造方法	イタコン酸またはその塩からなる単量体単位とエチレン系不飽和スルホン酸またはその塩からなる単量体単位およびメタクリル酸エステルとを結合含有する水溶性重合体の存在下、ラジカル重合可能な不飽和結合を有する単量体をpH5以下で水系媒体中にて水溶性触媒を用いて重合させることを特徴とする重合体エマルジョンの製造方法。
38	51-86048 (51. 7. 21) (相浦 惇)	58-48032 (58. 10. 26) (吉田 節夫)	1213032 (59. 6. 27)	開放循環式冷却水管用腐食防止剤	リグニンスルホン酸塩とリン酸エタノールアミン類との組成重量比が45/55~95/5であることを特徴とする開放循環式冷却水管用腐食防止剤。 開放循環式冷却水管中に組成重量比が45/55~95/5であるリグニンスルホン酸塩とリン酸エタノールアミン類とからなる混合物を10~1000 ppm 添加することを特徴とする腐食防止剤の使用法。
39	55-51115 (55. 4. 19) (橋本 功二, 増本 健 原 基, 浅見 勝彦 崎山 和孝, 伊原 義尚) (橋本功二と共願)	58-49632 (58. 11. 5)	1213069 (59. 6. 27)	電解用非晶質合金電極材料	10~40原子%のPおよびSiのいずれか1種あるいは2種ならびに20原子%を越えるが80原子%を越えないIrおよびRuのいずれか1種または2種を含み、実質的残部として10原子%以上Pd, RhおよびPtのいずれか1種あるいは2種以上を添加して、全体を100原子%とする電解用非晶質合金電極材料。 10~40原子%のPおよびSiのいずれか1種あるいは2種および20原子%を越えるが80原子%を越えないIrおよびRuのいずれか1種あるいは2種ならびに25原子%以下のTi, Zr, Nb, Taのいずれか1種または2種以上を含み、実質的残部として10原子%以上Pd, RhおよびPtのいずれか1種または2種以上を添加して、全体を100原子%とする電解用非晶質合金電極材料。
40	55-89107 (55. 7. 2) (西崎 克巳, 山根 伸治 小川 良和)	58-48581 (58. 10. 29)	1213072 (59. 6. 27)	形成用樹脂組成物	ポリオレフィン系熱可塑性樹脂100重量部, ホワイトカーボン1~200重量部, ポリアクリル酸0.1~100重量部からなる成形用樹脂組成物。
41	54-143332 (54. 11. 7) (山本 晃, 飯田 勝 真道 益夫, 大空 清治 小川 滋子) (日産化学より一部承継) (210-2565)	58-46221 (58. 10. 14)	1215448 (59. 6. 27)	硬質塩化ビニル樹脂組成物	a) 平均重合度が300~750であり, エチレン含有率0.5~15重量%, 塩化ビニル含有率70~99.5重量%, エチレンおよび塩化ビニルと共重合可能な単量体の含有量0.5~15重量%からなるエチレン-塩化ビニル系共重合体[A]100重量部。 b) スチレン25~40重量%, プタジエン30~60重量%, メタアクリル酸メチル2~15重量%およびアクリロニトリル0~25重量%を含み, かつその-60°Cにおけるねじり剛性率が $4 \times 10^3 \text{kg/cm}^2$ 以下である共重合体